

平成 30 年度 すこやかメールマガジン 第 635 号【イクボス】 3 月 7 日配信

今回は、男性が家事・育児に参画する鍵となる「イクボス」について、西和賀町「イクメン・イクボス講座」にてファザーリング・ジャパン東北 理事・岩手県代表 後藤 大平（ごとう だいへい）氏から伺った話の続きです。

日本の男性が家事・育児に参加する障壁となっている要因の一つが、世界一の「長時間労働」とのことです。特に 30 代、40 代男性の長時間労働の割合が高くなっているということです。（総務省「労働力調査」より）

しかし、その一方で売り手市場といわれる現在、就活生は「ワークライフバランス（個人的な活動・家族・仕事のバランスをうまくとること）」を最重視しているそうです。

現代は、価値観の変化や育児、介護、個人の活動、病気や障がいなど様々な働くことへの「制約」を抱える労働者が増える中、今こそ「イクボス」が求められると後藤氏は語っています。

そして、「イクボス」とは「働くスタッフのワークライフバランスを考え、キャリアと人生を応援しながら、組織の業績も結果を出しつつ、自らも仕事と私生活を楽しむ上司」のこと。多様な制約を抱えながらも活躍できる部下を育てることで、組織が育ち、地域が育つ。それら多様な経験を通じ、ボス自身も育つ。「イクボス」のイク（育）は「未来を育てる」ことだそうです。

そんなこと、実現可能なのだろうか？と思うのですが、「イクボス」宣言をし、働き方改革に取り組んだ企業の多くから、離職率ゼロ、就職希望者増加、増収増益、地元就職増加、残業時間大幅削減、企業イメージの改善といった具体的成果が報告されているそうです。

また、「イクメン」「イクボス」は子育て中の親だけでなく、子どもや家庭にも、職場にもそして、地域にも活力を与えるといわれています。さらに、「人生 100 年時代」を生きる男性にとって、自活力を身に付け、地域コミュニティと関わる機会を増やすことは、定年後や老後の安定と活躍にもつながっていきます。

当初、私は夫婦の子どもなのだから育児する男性を「イクメン」なんて持ち上げるのはどうか、という疑問もありました。しかし、子ども、男性自身、家族、地域社会等の未来を育て、みんなが幸せになるなら「イクメン」「イクボス」をもっと声高にアピールしてもいいのではないかと感じるようになりました。【Y】

○メルマガで取り上げて欲しい内容やご感想など、下記アドレスにお寄せいただければ嬉しく思います。(アドレス登録又は配信停止もこちらからどうぞ(^\_^))

mailto:[kosodatem@pref.iwate.jp](mailto:kosodatem@pref.iwate.jp)

○メルマガのバックナンバーを当センターHPで閲覧することができます。

アドレスはこちら

「まなびネットいわて」(<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/>) > 「発行物・刊行物」  
> すこやかメルマガ

これからも、どうぞよろしくお願ひします(^\_^)/

\*\*\*\*\*

**【発行】**

岩手県立生涯学習推進センター

025-0301 花巻市北湯口 2-82-13

TEL 0198-27-4555

URL:<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/> 「まなびネットいわて」で検索